

とっとり県民活動活性化センター情報誌

てとり

///
[特集]

座談会

地域にとっての若者、
若者にとっての地域



vol. **17**
2022.9

vol.

17

2022.9

てとり

CONTENTS



02 地域にとっての若者、 若者にとっての地域

特集

04 [座談会] 地域にとっての若者、 若者にとっての地域



Frontier School

ばばのばプロジェクト



フライイング・ホープ・オーブ
FLYING HOPE ORB

放課後釣具倶楽部



地域の若者の可能性

09 NPO法人 bankup (旧:NPO法人 学生人材バンク)



10 Let's Go!北栄ツアー実行委員会

県内のSDGsの取り組み

11 特定非営利活動法人 鳥取県障害者就労事業振興センター

11 夢現の風

地域にとっての若者、 若者にとっての地域

「若い人がいない」という言葉を、少子高齢化や人口減少の課題を突きつけられている地域ではよく耳にします。実際に、地域のことを担う主力は、比較的年配の方です。ただ、「若い人がいない」わけではなく、大人たちが「若者に期待すること」と、若者が「やりたいこと」がズレているに過ぎないのではないのでしょうか。

そもそも地域という一つのコミュニティには、子どもから高齢者までが暮らしていて、それぞれの役割やできることが合わさることで力となるはずです。その点で、若者が地域から離れていることは、地域の持続可能性を考えると、決して小さくない改善すべき課題であると言えます。

それには、まずは若者のことを知ることから始まると思い、今回のテーマははずばり「若者」。座談会では、自分の興味関心やバックグラウンドから地域をフィールドにした活動が続ける高校生、大学生の4人が集合。地域に飛び出すことで見つけたもの、大人との関わり方、活動をすることでの変化、などを語ってもらいました。

地域は若者にとってどんな存在であり、地域にとって若者の力がどのようなことをもたらし、何につながっていくのでしょうか。「これからは若者の時代だ」と話す大人側は若者を受け入れられる準備はできているのでしょうか。

若者たちの視点に触れること。それは地域の現状と未来を考えることになるでしょう。もう一度、向き合ってみてはどうでしょうか。今の時代、希薄になってきている人と人との関係を少し近づけることにつながれば嬉しく思います。





[特 集]

座 談 会

地域にとっての若者、 若者にとっての地域



● いつの時代も、未来をつくっていくのは若者であり、そ
● の力がうまく活用されている地域はやはり元気がいい。
● 地域の中で彼らが力を発揮するためにはどうしたらいい
● のか、そのヒントにしたいと思い、地域に飛び出し活動
● を続ける若者4人に語ってもらいました。

それぞれのやり方で
地域に飛び出して
いるみなさんにお集
まりいただきました。
まずは自己紹介をお
願います。

内田 この会場でもあ
る旧安部小学校の出身
で、現在は岡山大学の
教育学部で学んでいま
す。地域活動は、高校
生の頃に幼馴染たちと
地域の中で自分たちが
楽しいことをやってい
く「安部小プロジェクト」
をスタートさせ、
今は全国の大学生たち
とオンラインでつな
がって教育や地域のこ
とを組織的に考えて
やっていく「Frontier School」
を立ち上げています。

清水 高校は鳥取城北
高校に通っていて、今
は鳥取大学の地域学部
にいます。大学生になっ
てから駄菓子を使って
地域の世代間交流をし

たくて、大学の同級生
たちを誘ってプロジェ
クトを立ち上げました。
主に、鳥取県庁近くの
馬場町という地域で月
1回の駄菓子屋さんイ
ベントをさせてもらっ
ています。

白迫 地域の生物や自
然の環境問題が気にな
って、同じ高校に通
う2人と一緒に持続可
能な地域づくりを目的
に掲げたプロジェクト
をやりました。地域の
文化体験や地元の人た
ちに聞いた自然と共存
する暮らし方を、もっ
と小さな子どもたちに
伝えたいと思って活動
をしています。

芳賀 僕は、釣りが好
きだったことから、友
達と一緒に釣りに関わ
る環境問題について考
えています。釣り道具つ
て、プラスチックであつ
たり、鉛だったたりして

環境問題が起きやすく、
これを昔の道具を使っ
て釣りをすれば環境に
も良いんじゃないかと
いう発想で実際に作っ
てみることから活動を
始めました。最近では、
企業さんのイベントに
出させてもらい、作っ
た釣り道具などを展示
してみました。

皆さんが地域に関わ
るきっかけはなん
だったのでしょうか？

芳賀 あえて地域とつ
ながりを持とうという
よりは、自然とつなが
りを持つようになりま
した。昔の釣具に粘土
を使ってオモリを作る
ことがあって鳥取市内
の窯元さんに話を聞き
に行ったり、釣り糸を
植物の繊維からつくろ
うと思って智頭町の工
芸家さんに教えても
らったり。原材料の調
達から作り方を習うこ
とまで、地域とのつな

がりが必要れば自分た
ちだけではできないこ
とがあります。自分た
ちの活動を知ってもら
うようになると、いろ
んなところから材料な
どを提供してもらうよ
うになり、釣り針作り
に使う鹿の角なんか7
本くらい溜まっていま
す(笑)。

清水 高校生の時は、
ほぼ新聞部の部活だけ
頑張るタイプでした。
ある取材で、産前産後
のケアをされている「や
わらかい風」(鳥取市)
の川口さんと出会いま
した。それまでは、何
かの制約があり、目的
がある中で活動するこ
とが価値観の中で生き
てきたけど、川口さん
自身が楽しいと思える
ことをやる姿がすごく
新鮮で。そういう大人
と出会い、もっと地域
に飛び出して自分の可
能性を広げてみたいと思
い始めたのが最初です。



Frontier School

代表者 **内田 奏杜さん**

活動拠点

八頭町芸術文化交流プラザ「あーとふる八頭」
(〒680-0521 鳥取県八頭郡八頭町安井宿1346番地)

URL <https://www.instagram.com/frontier.school.2020>



私たちは、ひとりひとりが活気に溢れ個性豊かで、協働的に学び成長できる地域社会を目指しています。そのために、八頭町の閉校舎に学びの秘密基地を創り、そこを拠点に探究的なワークショップを開催するなどしています。全国から大学生約60名が参画し、鳥取県を中心とした教育や地域のあり方などについて、ワクワク・ドキドキしながら語り合っています。今後も地域社会をフィールドに探究的な学びを創造していきます！

内田 自分は、最初は

遊びの要素が強かったですね。この安部小学校を卒業したんですけど、2017年に閉校して、その後に行ってみたら当然、先生も誰もいない。それがすごく寂しくて、何かしたいと思ったのがきっかけです。地域の関わりも大事にしていますが、何よりも自分たちが楽しむことが大事だと思っていて、それによって共感してもらえ、地域の人たちとつながるような気がしています。それが僕らの原点でもあり、今の活動の原動力でもあります。

白迫 僕は、農業が好きというのがきっかけです。ひいおばあちゃんが畑をやっていて、僕も幼稚園の頃にやりたいと言いついて手伝いを始めました。やっているうちに野菜を作って近所の人にあげ

るようになり、その人が笑顔になる姿がとても印象的で、僕も将来は農業をしたいという気持ち芽生えました。

日野高校に入ってから日野郡がやっている「日野郡公設塾まなびや縁側」という地域とのつながりを深める活動に参加し、農家のフィールドワークや農業実習、いろんな体験ができました。こういう体験で学んだことを今度は子どもたちにも伝えたいと思って活動を始めました。

活動の広め方や地域に出て感じたことはありますか？

内田 閉校後の学校が荒んでいくのが嫌だなあと思う、掃除をしたかったんですね。でも掃除という誰も来ないと思って、どうしたら面白くなるかなと思って校舎内で鬼ごつ

こをしようと集めたら、保育園の頃からの幼馴染たちが集まってくれました。このプロジェクトで徹底的にこだわったのは安部小を卒業した中高生だけでやること。ここで生きてきた仲間だからこそ分かち合えるものがあって、それがうまくいったんじゃないかと思っています。

清水 SNS経由で「居場所づくりしてみない？」というダイレクタメールで大学の同級生を勧誘しました。向こうはこっちの顔も知らない状態で、今思ったらすごい方法で声をかけました(笑)。活動は、コミュニティの核を再構築することが目的。馬場町でやっている「前はよかった」とよく聞くんですけど、それは高齢者と子どもたちが一緒に何かをしたり、お裾分けし合え

る雰囲気のことだと思います。今は世代間のつながりがなくなっているんだと感じました。

地域に出るということとは、地域の大人と関わることで出てきます。どのような関わり方をされていますか？

白迫 環境に優しい農業をしてみたいと思い、高校2年生の時に自分で田んぼを借りて稲を育てたのも「縁側」のコーディネートの人

が地域の人を紹介してくれたからです。おかげで、使われていない田んぼを借りることができました。田植などは自分でやりましたが、田んぼの水管理だけは地元の農家さんが協力してくれたからこそできたことです。実は、そのお米がイノシシにやられてしまい、自然や生き物を



ばばのばプロジェクト

代表者 **清水 愛結さん**

URL
<https://babanoba.wordpress.com/>



「人と人を繋ぎたい」それが私達のモットーです。2020年4月に活動を開始。鳥取市馬場町を活動拠点に、駄菓子屋を軸に多世代間での交流を促進し、町内外からも人が集まるようなコミュニティの核を再構築することを目指しています。現在は、馬場町だけでなく、他の中山間地域にも出向き、イベントや駄菓子屋を行い、より幅広い世代の人と人をつなげたいと実践中。私達は、学生だからこそ出来る事を追求し、様々な人が笑顔になれる空間を作りたいと考えています。「幸せ」「楽しい」とメンバー自身が思える事を大事にし、今後も様々な活動を展開していきます。

相手にする厳しさを知ったのもいい経験でした。

内田 地域性が関係していると思うんですが、もともと安部って地域のひととの関わりが強く、僕らもその辺のおじいちゃんおばあちゃんたちと話したりします。何かイベントをするときも、例えば駐車場のことなど、高校生という立場では気づき難いことなどを率先してやってくれます。地域のひととの関わりは大事にしていますが、自分たちの方向性の軸を定めていくときは大人を入れません。大人の方々から「ああしたほうがいい」という声もないわけではありませんが、自分たちがやりやすい環境を作ることが大事。その上で自分たちが地域にどう還元できるかを考える。僕らのことを小さい頃から

20年間見守ってくれた人たちだから「子どもたちがやるんだから子どもたちがやりたいようにやったほうがいい」といい距離感を保っているの、すごくやりやすかったです。

芳賀 一緒に始めた友人も僕も鳥取で育ったんですが、生まれたのは県外で、両親とも鳥取県出身ではないので親戚も少ないし、地域とつながりがあまりない状態で始めました。その中で自然のものを入手しようとする、どうしても地元の人を頼らないといけない。例えば、竹が必要だったら竹が生えている山を持っている先生にお願いするなど、進んで関わりにいきましたね。

活動を通して自身や地域の変化は感じていますか？

清水 少しずつ変化を感じています。イベントにも最初は自分たちの身内しか来なかったけど、ちよつとずつ「何をしているの？」とか声をかけてくれる地域の人が増えてきました。「自分は暇だからなんでも使っているよ」と手伝ってくださる方が現れたり、「若い人が頑張っているなら自分たちも頑張ろうかな」という声が聞けたのは、地域に生まれた変化なのかなと思います。メンバーも最初始めたのが4人で、去年1年間で8人になり、今年4月で19人になりました。大学は4年間しかないけど、新しい人を受け継いで続けていけると思っています。

白迫 改めて、自然環

境を守りながら農業をしていきたいと感じました。それで実際に田んぼをやってみたことで、農薬とか使わないと収量は減るし、生き物と折り合いをつけていくことも学びました。何より学校以外の活動は楽しい。「また課外活動か」と友達にも言われるけど、自分はどんな地域に出ていきたくありませんね。

内田 鬼ごっこをしているうちに、あるメンバーが「自分たちで夏祭りがしたい」といつてくれるように。自分たちが楽しい夏祭りをして、地域の人も50人か100人来てくれたらいいかなと思ったんですけど、地域住民800人のうち400人くらいが来てくれました。昔は運動会とかも地域と学校のものと一緒に、つながりが目に見



フライング・ホープ・オーブ
FLYING HOPE ORB

代表者 白迫 健翔さん

■主な活動エリア 日南町、南部町

チーム名F.H.Oは、メンバーの名前の一文字を英訳（「翔」=FLYING、「希」=HOPE、「陽」=ORB）し、「希望のひかりを広めたい（飛翔）」という思いからきています。希望のひかりとは、「自然と共存した昔の生活の見直し」「SDGs知識の普及」です。自然にも人にも優しい世の中になることが目標です。昨年度は昔の生活や遊びの体験、SDGsクイズやジオラマ作りのイベントを開催しました。

今後も活動を続け、自分たちもさらに知識を深め、SDGsの取り組みを広げていきたいです。

えていたんですけど、閉校してそれも見えなくなりました。夏祭りをした時に、当時の運動会の時みたいに「久しぶりにあの人に会ったわ」とか声も聞けましたし、子どもたちがやっていることに大人も交えてやっていったらいいよねという雰囲気を感じています。

芳賀 もっと楽しい気持ちで釣りをしたいと思って、もともと工作が好きで楽しいし、こういうことをやっているんだと話した時に予想以上に皆さんの反応が良くてびっくりして。5月末に山陰酸素工業さんのサステナブルマルシェというイベントで、鹿の角で作った釣り針やオモリなどを並べて紹介した時も、嬉しい言葉を多くいただきました。

今後の展望や目標はありますか？

白迫 個人的には、日野高校やプロジェクトなどで得たものを次に生かしていきたいと思っています。自然に寄り添った農業をしたい思いはますます強まったので、大学に行ってもっと自然のことで、生き物のことを学んで、いずれは帰って地元で農業をしていきたいと思っています。

芳賀 イベントで感想をいただいた時に「ぜひ続けてください」との声をいただき、自分たちが思っていた以上に価値があることなにかもしれないと思います。でも、メンバーの主軸が高校3年生でそれぞれ進路に向かっていて、僕らが卒業した後が続いていくのも難しいのが現状です。共通する核となる価値

観を引き継いでいくことが大事だと感じるのと、やはり共感を広げて同じ価値観を持つ仲間を増やしていくしかないですね。

清水 私自身、鳥取の大人たちに変えてもらったと思うので、今度は自分が同じような土台を作ることができたらいいなと思っています。可能性を伸ばす上では、地域に飛び出すことは大きい。それだけ外は広いし、視野も広がるし、考え方を換えればやりたいことができるとたくさんの人に知ってもらいたい。そういう思いでやっていけたら鳥取は変えられる。すごく大きな目標を言えば、鳥取県を変えたいです。

〇しは全国の大学生とつながり、いろんなところから情報を得て、外の視点を取り入れて教育や地域のことを組織的にやっています。この場所がさらにいろんな拠点になっていけばいいと思っていますのと、個人的な目標で言えば将来は教員になろうと思っています。学校教員になりつつ、社会教育を広めたくて、もっと子どもたちが外に出ていって、地域を変えられるというよりは人を変えられる人になりたいと思っています。この活動をやり始めて教員になりたいと思いはじめました。人をつくるのが教育で、それが地域に波及すると思っています。



放課後釣具倶楽部

は が みち ろう
代表者 **芳賀 道朗** さん

■主な活動エリア 鳥取市内の海、山、川など様々なところ
■URL <https://sites.google.com/view/houkagotorigu/home>



環境問題が懸念されている「釣り」の改革を志す高校生で結成した団体です。昔の釣り具には自然環境を汚染・破壊するような素材が使われていないことに着目し、そんな昔の釣り具を再現して、それらを使った魚釣りを研究しています。地元の工芸家・陶芸家の方や、青谷上寺地遺跡展示館の方などに教を乞いつつ、カラムシという植物から釣り糸を、鹿の角から釣り針を、石や粘土からはオモリを作っています。実際にそれらの釣り具を使って魚を釣りつつ、この釣りを普及させるイベントも開催しています。

地域の若者の可能性

高校生・大学生を受け入れている団体や地域、または活動をサポートするコーディネーターの立場からみた気づき、学生が活動しやすい環境づくりのコツなどについてお話を伺いました。

「若者 × 地域」

学生と地域を繋いできた20年

NPO法人 bankup (旧:NPO法人 学生人材バンク)



代表理事 中川 玄洋さん

b ankupでは農業ボランティアを皮切りに、お米の生産から販売までを行う「三徳レンジャー」など複数の学生プロジェクト、その他にも就職支援、起業支援などを通して学生や若者と地域をつなぐ活動を行っています。

学生の活動支援を行う時には、「つなぐ」、「翻訳する」、「伴走する」の3点を中心に行っています。「つなぐ」は文字通り、学生と地域の色々な方を繋いだり、紹介する支援です。「翻訳する」は、世代が違くと文化や時代背景が異なり、話がズレてしまうことがあるので、間に入ってコミュニケーションが円滑にできるようにしています。また「伴走する」は、学生自身がプロジェクトなどを立ち上げて活動をする際にサポートをしています。

「伴走」の際に心がけているのは、学生自身が「自分で考え、自分で決める」ようにしてもらうことです。よく学生から困った時に「どうしたらいいですか?」と相談されることがあります。以前は「こうしたらいいんじゃない?」とついアドバイスをし過ぎてしまっていたのですが、今は代わりに「あなたは どうしたいの?」という問いかけをして、あくまで自分で考え、決めるということを意識してやってもらうようにしています。

「つなぐ」際に、受入れ側の地域の方に理解しておいていただくと良いかなと思うのは、学生のスケジュールと活動の引継ぎの2点です。

まずスケジュールですが、大学生は試験、高校生も定期考査や部活の大会など予定を動かさない時があります。そこに「イベントを開催するので手伝ってほしい」と依頼してもやはりなかなか参加してもらえませんが、大まかに学校のスケジュールを把握しておくことは大事だと思います。次に活動の引き継ぎですが、大学生の場合、中心となって

活動できるのは2年生ぐらいまでです。3年生になると就職活動の関係などもあり、中心となって活動するのは難しくなってきます。3年生以上の関わり方は後輩のサポートなど、引継ぎの期間と捉えることもできるので、結果として活動をうまく引き継いで行ってくれることもあります。そこを意識して一緒に考える事が大事です。

一方、高校生の場合、状況が変わってきます。3年生の夏頃から受験勉強などが本格化するので、大学生以上に活動や引継ぎといったスケジュールを早く回さないと、活動の積み重ねという点では難しくなってくると思います。継続性など、あまり多くを求めすぎると地域側も学生側もお互いがしんどくなってしまうので、求め過ぎないところで一緒に活動できるといいのかなと思います。

bankupは今年で20周年を迎えました。これからも高校生、大学生をはじめとした学生や若者が地域でやってみたいことを応援していきたいと思っています。



NPO法人 bankup
webサイト→





「自分で考え、やってみる」 を大切に

高校生の街歩きツアーガイドプロジェクト。



代表者 濱口 国彦さん

Let's Go!北栄ツアー実行委員会

7 年前から、鳥取中央育英高校の生徒さんと一緒に、一般の方を対象とした北栄町の街歩きツアーを行っています。これは私が一般社団法人東伯青年会議所にいた頃に、町のことを一緒に考えられる人を増やしたいと考え、若い人が一つのイベントを作り上げる経験をすれば地域への関心度も上がるのではないかと考えたことがきっかけです。

年度ごとに実行委員会を立ち上げ、半年間くらいで10数回の打ち合わせをして本番を迎えます。毎年、5~10人くらいの学生が集まってきて、大人はなるべく余計な口出しをせず、失敗してもいいから自分たちの力でやってみることを大事にしながら実施しています。

参加した高校生たちからは「否定もされないし、好きなことをさせてもらえてよかった」、「先生と親以外の大人と話せて、一緒に何かできてよかった」と言ってもらえています。

こうした活動を行っているのは先にも述べました「地域の関心度を上げる」ためです。最近気になっているのは、地域の大人たちでさえ、北栄町のことを聞いてもコナン、スイカ、風車くらいしか思い浮かばない人が多く、地域づくり活動に対する関心度がとても高いとは言えないのではということです。こうした状況では、高校生たちも大人たちから地域のことを学んで関心を持つ機会をなかなか持てません。

そのため、町長訪問をしたり、地域で面白いことをしている大人がいたら話を聞きに訪問したりして、地域や大人に触れて学ぶ機会を作りたいと思っています。

最近は高校生と地域のつながりは多方面に広がりがあって、北栄町の社会福祉協議会さんとは昨年から高校生サロンを開き、高校生が地域交流の企画を考えるプロジェクトが始まりました。また、琴浦町では70~80代が中心でまちづくりをされている「夢現の風」さんと一緒に八橋ツアーも行っています。

私たちがやっている活動は、「ガイドツアー」をすることが目的でなく、高校生であっても地域の担い手であり、自分が動けば何かが変わることを肌で知ってもらえきっかけづくりです。

子どもたちにとって大切なのは体験だと思います。体験したことは覚えなくても話せるし、心に刻まれます。その体験の中で、地域のことに関心を持ったり、子どもたち自身が自分の進む道や生きる道を見つけてくれることを願っています。



Let's Go!北栄ツアー実行委員会

Facebook→



SDGs:持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)
2030年までに達成すべき17の国際社会共通の目標
169のターゲットで構成

当センターは、SDGsに取り組む個人、団体等の情報交換・発信の場となる、
「とっとりSDGsプラットフォーム」の事務局として、
SDGsの推進を行っています。
今回はプラットフォームのメンバーのなかから、
2団体をご紹介します。

会員随時
募集中!



<https://sdgsnwt.jimdofree.com/>



とっとりSDGsプラットフォーム

TOTTORI SDGs PLATFORM



特定非営利活動法人 鳥取県障害者就労 事業振興センター

私たち鳥取県障害者就労事業振興センターは障がいの
ある人たちが、地域で共に生き、働き、『夢』を持って暮ら
せる地域社会を目指し活動しています。障がいのある方
の就労促進、収入向上に向けて、商品開発、共同販売の実
施、企業等からの受注拡大等の取り組みをしています。更
に地元企業や自治体等での職域拡大や、農福連携では休
耕地を活用した農産物栽培や加工品製造販売など、地域
との連携を図っています。

「SDGs」の取り組みの一環として、4年前より地域課題
をテーマにした学習会やカードゲームのワークショップ
を実施していますが、私たちの目指す地域のイメージと
重なる部分が多いことに気づきました。

障がいのある方々が生き生きと働き・暮らせる地域社
会は、誰もが暮らしやすい地域です。2030年には障がい
のあるなし関係なく、誰もが健康で暮らしやすい地域社
会を実現したいと強く願います。

現在、私たちは、「地域課題の解決を『障がい者の就労』
で解決しよう」をテーマに掲げ、農
福連携の他、観光やスポーツの分
野でも連携する仕組みづくりに取
り掛かっています。更に、工業の分
野との連携も視野に入れ、「工福
(幸福)」連携も構築したいと考え
ています。

福祉とつながると、みんなが幸
せになる、そんな地域社会を目指
して進んでいきます。



■住所: 〒683-0802 鳥取県米子市東福原1-1-45
鳥取県西部総合事務所福祉保健局別棟
■HP: <https://sanko-tori.com/>
■連絡先: 0859-31-1015



夢現の風

琴浦町は、鳥取県のほぼ中央に位置し、6,480世帯・人口
16,600人弱(令和4年8月現在)で町のスローガンは「小さ
いくせに ぜんぶある 惑星コトウラ」。この惑星の一角
の八橋地区は450世帯・人口1,400人弱で、日本海を望む
八橋川河口を中心とする旧伯耆街道筋に城下町(陣屋)、
宿場町として栄え、明治以降昭和40年代にかけ商工業を
中心に賑わいました。しかし、昭和50年以降、物流広域化
による新国道や山陰自動車道が整備され、旧街道筋の商
店等は廃業・移転に追い込まれ、閑散とした町に変貌しま
した。私たちは、昔の賑やかさを取り戻したいと願い、推
定築180年の鳥取県和風建物100選認定古民家を活動の
ステイタスシンボルとして位置づけ、2019年12月八橋の
まちに賑わいを願い「夢現の風(やばせ)」を立ち上げまし
た。(現在は「夢現の風」に改名)

組織の活動バリューは、

- ①足元にある地域コミュニティと心豊かな地域づくり
の源泉とする。
- ②シェアする暮らしに価値を見出し取り組む。
- ③先人たちが残した大いなる知恵を継承することを大
切にする。
- ④地域の資源と地域の人(土の人)と外部の人(風の人)、
地域と外部を繋ぐ人(水の人)と協働して活動する。
- ⑤地域の未来をイメージしながら行動する。
- ⑥子育てをゴールと定め、地域を豊かにし、現代人が失
いつつある人との繋がりを大切にする。

とっとりSDGsプラットフォームは昨年会合し、できる
こと、できそうなことから始めようと目標17のうち「3
全ての人に健康と福祉」「11 住み続けられるまちづく
り」「12 つくる責任つかう責任」を掲げて活動を続け、
人と人の繋がりを大切に、賑わいと活力に満ちた持続
可能な共生社会をめざします。



サンイン未来ウォークでのおもてなし



サロンにてイスに座っての体操

■事務局: 〒689-2301 鳥取県東伯郡琴浦町八橋748-2
地域交流ステーション きないや
■HP: <https://www.facebook.com/mugenkaze848>
■連絡先: mugenkaze848@gmail.com



編集 後記

センターに勤務して1年が経過した。興味のある地域づくりを門前の小僧で習得しようと考えていたが、そんなに甘くはなかった。1年間で、県内では志のある方たちがそれぞれのやり方で地域づくりを進め、若者も自分たちなりのやり方で地域に関わろうとしていることを知った。これからも活動に期待し、応援したい。

(小林綾子)

てとり「てとり」はとっとり県民活動活性化センターの愛称です。

発行：公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター

発行人：毛利 葉

編集人：小林 綾子

取材・編集：藤田 和俊（合同会社僕ら）、寺坂 純子、椿 善裕、池淵 菜美、谷 祐基、世瀬 あけみ、上山 梓

写真：藤田 和俊（合同会社僕ら）

写真提供：Frontier School、鳥大ばばのばプロジェクト、FLYING HOPE ORB、放課後釣り倶楽部、

NPO法人 bankup（旧NPO法人 学生人材バンク）、Let's Go!北栄ツアー実行委員会、

夢現の風、NPO法人 鳥取県障害者就労事業振興センター

協力：夢現の風、NPO法人 鳥取県障害者就労事業振興センター

デザイン：山本印刷株式会社



読者アンケートに
ご協力ください。



「てとり」
バックナンバー
はこちらから。

2022年9月30日発行(第17号)

お問合せ／公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター URL <http://tottori-katsu.net/>
〒682-0023 鳥取県倉吉市山根557-1 パープルタウン2階
TEL 0858-24-6460 FAX 0858-24-6470 E-mail info@tottori-katsu.net